

鷹野 光行 / TAKANO, Mitsuyuki

文化科学系 / 文教育学部人間社会科学科

<http://www.li.ocha.ac.jp/hss/edusci/takano/index.html>

## ■ 研究者情報

## 連絡先

東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学博物館学研究室  
Email: [takano.mitsuyuki@ocha.ac.jp](mailto:takano.mitsuyuki@ocha.ac.jp) / TEL: 03-5978-5255 / FAX: 同左

## 専門分野

日本考古学 博物館学

## ■ 研究成果情報

## 遺跡の調査・保存と活用

## キーワード

埋蔵文化財 古代の環境復元 災害と考古学 噴火罹災地 生活跡

## 研究内容

- 概要（背景・目的・内容）
- 潜在可能性（応用・将来展望）

鹿児島県指宿市に所在する敷領遺跡の発掘調査による古代の生活・文化環境復元の試みを数年来続けている。この遺跡は974(貞観16)年3月25日(現代の暦に変換)に噴火し火山灰を大量に降らせた開聞岳の噴火によって埋もれた遺跡である。2005年に火山灰に埋もれた水田跡を発掘して稲株跡を見いだすことによってその水田の収穫量を推定し、2007年には畑跡を発掘して田と畑は別の場所に作られていたこと、どちらも堅い火山灰に覆われていたところからここはその後復旧されることもなく放棄されてしまったことが明らかとできた。2008年・9年には建物跡を掘り出し、この周りと道路上においては火山灰が掘り返されていたことがわかった。住まいとその周りについては復旧のための努力がされていたものの肝心の生産の場においては復旧することができずに結局はこの地区全体が生活の場としては放棄されるに至ったことが推定できた。災害とその影響を受けた人々の生活をどう考えるのか非常に手がかりが与えられたことになるだろう。

この遺跡はさらに調査を進めて将来史跡として指定されることを想定し、保存のための地域の人々の理解を得られるよう努めていかなければならない。その上で活用手段を講じることになる。人と災害との関係、災害に対処する古代の人の姿からも学ぶことは多いだろう。



水田跡



畑の畝跡



建物跡

## 特許・著作物等の知財情報、製品化情報、あるいは社会貢献実績

2006年10月、指宿市考古博物館開館10周年記念で「火山で埋もれた都市とムラーイタリア・日本・インドネシア」と題するフォーラムを開催、国立西洋美術館館長青柳正規氏ほかの講師陣により人と火山との関わりについて多彩な話を展開できた。

## 産学官・社会連携の可能性

- 共同研究／技術提供／知見の教授・共有（公開講座、ワークショップ等の実施／出版／その他）

災害に対して人はまず何をすればその後の復興に結びつけられるのか、まさに現代的な我々が直面している課題に対しての情報の提供ができる。